

エガレégarée 迷えるミス
ティーク



小泉友美 KOIZUMI T



目次

エガレ égarée	1
----------------------	---

エガレ égarée

エガレ 迷えるミスティーク

エガレ (égarée) とはフランス語で「迷える、道に迷った」という意味である。この書き物は、ルイーズ＝ド＝ネアン Louise de Bellère du Tronchay (1694) という通称で知られる、「書簡集祈りの書」から着想を得た。ルイーズは、西フランスアンジェに縁のある女性神秘主義者で、幼少期に実の家族に虐待されたが美しく育ち、社交界の華となるが、こころを病んで病院暮らしとなり、家族、世間から見捨てられるという屈辱に苦しみながらも、キリスト教信仰の元で、献身的に病人達を介護することで、救いと光の勝利を得た。

本文

胎を裂くような叫び声をわたしはこの身に、この魂を覚えて、よろめき、静けさも、やすらぎも失い、憩う事もできず、ただ戦慄くまに。この仮借ない炎灼なる苦しみは、幼少期、思春期と続く 36 年の歳月からなり、「おんな」としての晴れ晴れとした、艶めかしく、美しい恩寵はすでに過ぎ、歩める歩はもつれにもつれ、いまや老いた皮膚はかさぶただらけ、涙も涸れ果ててしまった。

もう、こんな苦しみはいや。

いつまでも生きていたくないの。

もう、わたしを放っておいて。

熟れた肉体の犯ちをおかしたと、告解室を後にして、全体重をかけて、折れ曲がって、つんつんとしたそのいびつな膝小僧には、赤紫色の斑点、声なき悲嘆。

なんて、かなしいの。

両眼をつぶって、踴れない聴罪師の息のみ感じる木杵、見つめられる、そして声を聴く。

ひそやかな、囁き声、がらがら声のクレッシェンド。

1 つのつぶやき声は、1 つの確実なる言葉として発音されて、はらわたにしみるような、叫びとなる。ああ、わけもわからず、罪のおんなとなる自覚もなく、もしかしたらそんな女を演じてみたいつぶやきが、こんなに私を卑しめてしまったの？

そんなつよくて、もろい欲望は、足元に落とされた香水瓶のようにばらばらに砕け、落ちてしまった。

つよく立ち昇る甘美な香りに身体中、熱くて、つよい、逆流を覚えるまま。途方もない苦しみ、痛みと怖さに我を忘れ、それなればと、わたしは今までの罪の意識と、恋と情熱に悶え、泣いて、流れた血に染まったこの紅い衣を身にまとい、ただひたすらに「かえり」

を待つことにしたというのに、そのおそれを知らぬ狂想にかられて、長い髪をふり乱して、とてつもない叫び声は声にならず、喉の奥底で詰まってしまっている。正明には、美しい聖女マグダラのマリアの影が両腕を広げて、その色っぽさ、強烈ないのちの迸りがなにもかも許してしまうのに対して、背後から迫ってくるのは、聖金曜日。恐るべき十字架。でもわたしはもうなにも感じない、なにも見えないの！ 内部からどっと押しよせてくる、暗いまぐまのような衝動が、わたしをさらに盲目にしまって、涙すら流れません。夜も眠らせない。昼も目覚めるまま。このままどうぞ、わたしを早く逝かせて。ぴたぴたと走りよってくる女兒は、その過ぎ去った瞳で問いかけるまま、表情が少しずつやわらいでゆき、突然笑い声が、2つの心を重ね合わせた。

罪てなに？

地獄てなに？

なぜ魂は堕ちてゆくのか？

無表情の神父がつぶやくのは、「あなたは道を見失った。」

5人兄弟が美しく装った日曜日の食卓に一諸につくことは許されず、投げつけた肉片を犬とむさぼる。

「あなたの罪はあまりにも暗く、大きくて、幼少期の苦しみは、未だカミから許されていない。」

そう、この地上における道を見失うままに。

でも、いつまで、どこまで、失えば良いのでしょうか？

無表情な黒衣の神父は、はじめて目を見開いて、ここからの怒りに燃えながら、

「かみは罪人には同情せず、悔い改めての態度によって許しを得られる。でもあなたには、すでに道がない。」

はたしてこの言葉は、わたしのものなのか、それとも、カミのものなのか。誰か、教えて。気がつけば、静寂な光に満ちた祈りの室から意識は遠のいて、いつの間にかねずみ色に澱んで、汚いセーヌ川に面した、しらみだらけの藁の敷かれた部屋に閉じ込めてしまった。長い髪の毛は、ぱっさりと根元まで断ち切って、部屋着は垢にまみれて替えられることなく、叫び声も涸れ果てて出ない。

ひとり、そしてひとり。

キリストの受難と十字架が、人間として生まれての罪を刻んだ身体に、あちらこちらに血の染み出した傷に重なり合う。再び、無邪気なあの女兒が合わせ鏡のように、駆けよってきて、そう、あの頃はなにもわずらい無く、穢れなく、四足で這い廻って笑えば笑い、泣きたい時には泣きたいのみ。

どうぞ、幼児のころを忘れずに、夢を忘れずに。

「エヴァの娘」はこうして輝ける「聖母の娘」となってゆく。

その美しさ。

「愛よ愛」

声なき声で歌いなさい。

「主よ、あなたのお求めになるわたしのすべてをお与えします。あなたの愛のみで生かしてください！

無意識から意識が醒めて、しずかなる祈りにまかせるまま。もう、わたしは抗うだけの

力は尽きました。何の策も、もはやなく、ただひたすらに、無邪気に、主の愛のみで好き放題にして!」

迷えば道は開き、たどり着けば道はまた閉ざされる。

「エガレ égarée 」

信仰とともに。

アーメン！

完

(2024 年 12 月 8 日 作)

エガレ 迷えるミスティーク

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
